

第二言語習得（SLA）研究と訂正フィードバック

「訂正フィードバック（CF）」は外国語教育における重要な指導要素であり、第二言語習得（SLA）研究の主要テーマの一つです。本講義ではSLA理論の発展とCF研究の歴史を関連づけて学び、口頭訂正フィードバック（OCF）とライティング訂正フィードバック（WCF）の両面から、理論的根拠、実践的效果、教育的意義を考察します。さらに、教育環境の変化（オンライン授業、AI活用など）がCFの形態や効果に及ぼす影響についても取り上げます。最終的に、受講者が自身の教育現場に適したCFの方針を構築できることを目指します。

第1回

10/10（金）19:00－20:30

SLA研究史と訂正フィードバックの起源

SLA研究の主要パラダイムとCFの関係、Lyster & Ranta (1997)の口頭訂正フィードバック分類とその後の精緻化およびその後の議論について学びます。

第2回

10/17（金）19:00－20:30

ライティング訂正フィードバック（WCF）の理論と実践

Truscott論争とWCFの有効性を巡る議論、様々なWCFの比較や効果に関する議論について学びます。

第3回

10/24（金）19:00－20:30

教育現場におけるCFの実践と課題

学習者中心授業におけるCFの役割、教室の文脈によるCFの適応、オンライン授業におけるCFの工夫などについて考えます。

第4回

10/31（金）19:00－20:30

CFの未来と現場への適応

AIによるCFと人間教師の役割、CF研究の今後の方向性について考えます。

講師プロフィール



名部井敏代 先生

関西大学外国語学部・大学院外国語教育学研究科教授

米国ペンシルベニア大学教育学研究科修士課程、トロント大学大学院教育学研究所博士課程を経て、2003年より関西大学勤務。2013年より現職。専門は、教室内第二言語習得研究・英語教育法。第二言語・外国語の学習・習得を促進する指導のありかたを、第二言語習得理論（社会文化的アプローチ）の枠組みを用いて研究している。教室という学びの場で教師や学習者の間に起こる相互の言葉のやりとり（談話）や、学習者の学習言語での発話や執筆（アウトプット）が、L2習得にどのように関係し得るのかを探求。

著書『フィードバック研究への招待：第二言語習得とフィードバック（第2章）』（くろしお出版）、『Recasts in a Japanese EFL Classroom』（関西大学出版部）

受講方法

Zoomによるオンラインでの受講

※開催前日前までに申込者のアドレス宛に受講URLをお送りいたします。セミナー終了3営業日以内にアーカイブ配信を行います。1週間程度アーカイブ動画をご覧いただけます。ただし、できるだけ当日オンタイムでのご参加をお願い致します。

受講料

全4回 9,000円（税込）

申込期限

2025年10月8日（水）

申し込み



<https://jle2508.peatix.com>



<https://osakaymca.ac.jp/jle-center/2508.html>

注意事項

- ・申し込み人数が5人未満の場合、開講しないことがあります。
- ・講座はPCでのご受講を推奨します。Wi-Fi環境など高速通信が可能な電波の良いところでご参加ください（通信料は受講者負担）。
- ・講座の録画・録音等のご遠慮いただいております。
- ・お一人様、一媒体でのご参加をお願いします。

大阪YMCA日本語教育センター

住所：大阪市天王寺区南河堀町9-52

電話：06-6779-8354 メール：jle-center@osakaymca.org

担当：亀田（かめだ）・鈴野（すずの）